

令和 7 年度旭小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25003

実 態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	前年度は、研究主題「つなげる子ども」の中でも、「豊かにつながる対話づくり」に力点を置き、自己対話と他者対話という二つの視点から授業改善を図ってきた。 ◇自己対話では、教材化の工夫や振り返りの重視により、子どもの「～たい」を生み、意欲的に考えようとする姿が多く見られた。 ◇他者対話では、実態・場面に応じた交流形態の工夫や役割を明らかにした班交流などにより、友達の話聞いて学ぶよさを実感し、自分から友達と関わって考えを広げたり、自分の考えを確かにしよとしたりする姿が増えた。	◇学力の個人差が大きく、自ら既習を活用して考えることが難しい児童に対して、手立てや個別の関わりを工夫することが必要である。 ◇児童アンケートでは「学習がよく分かった」と答える子が減少している。「分かった。」「できた。」という実感をもてるよう、やり遂げた時には即時的に評価し、認め励ます関わりを意識し、子どもたちの自己肯定感を高める。 ◇自分から課題を見付けるのが苦手な児童も少なくない。学習時の取組はもとより、委員会活動等で自分たちの現状から活動を考えるなど工夫し、課題を見付ける力を育てていく。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題

◇前年度の重点であった「豊かにつながる対話づくり」については日々の授業の積み重ね等により、相手の考えをしっかりと聞こうという意識や態度は育ってきている。昨年度末に実施した児童アンケートの主体性に関わる項目では子供たちの肯定的な回答が得られているが、その一方で、学力テスト等の結果や日々の子供たちの学習の様子を見ると基礎基本の学力がしっかりと身につけているとは言い難い。試みを支え、自ら歩みだす子どもたちを育むためにも、「自分から学び進める姿」「進んで表現する姿」「成長や伸びを実感する姿」の実現を目指し、今年度の目指す資質や能力を「学びを切り拓く力」と位置づけた。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

主体的に、自らの学びを切り拓く力

取 組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇導入場面では、教材化の工夫と見通しをもつことを大切にすることで、子どもの「～たい」を生み、意欲を引き出す。 ◇課題への個人追究の時間を十分に確保し、その中で子どもの思い・考えを見取り、考えをもつのが難しい子には個別に関わることで、その後の交流の充実を図る。 ◇考えを広げるのか、深めるのかなど、ねらいに沿った交流の工夫で他者との交流の充実を図る。 ◇振り返りシートなどで、自己の変容、高まりを自覚できるように工夫する。	◇学校生活全体を通して、教師が子どもの話をしっかりと聞き、子どもの意思を尊重して関わるとともに、子どもたちが自分たちで解決していけるよう、認め励ましていく。 ◇学校行事の運営、委員会やクラブ、縦割り活動などでは、各活動のねらいを共有し、子どもたちの「～たい」を自分たちで実現できるように支えていく。振り返り際には、「プラスのまほう」と照らし合わせ、自分たちが学校全体に対してどんな影響を与えられたか実感できるようにする。

〈本プログラムの実行に向けて〉

新年度（主に 1 学期）

◇発達段階に合わせた低・中・高の各学年ブロックに分かれて、日常実践交流や授業づくりに取り組んでいく。

〔一人一人の教職員〕（2 学期から）

◇研究の力点「自ら学びを切り拓く」に関連する個人テーマを決定。チームに分かれ日常実践の中で追究してブラッシュアップ。

〔学校全体〕

◇各々の個人テーマに基づいた実践交流と授業づくりを通して、「学びを切り拓く力」に有効な手立てを確立していく。

次年度へ

◇これまでの実践や子どもたちの育ちを振り返り、今年度の取組の成果と課題を明らかにする。

